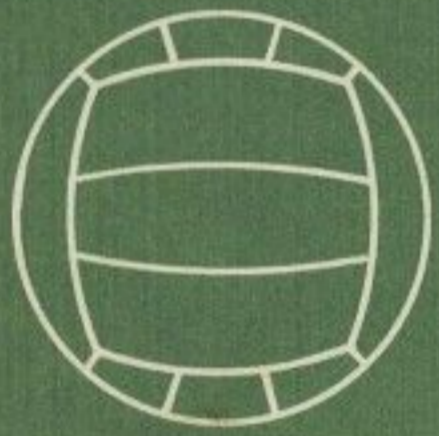
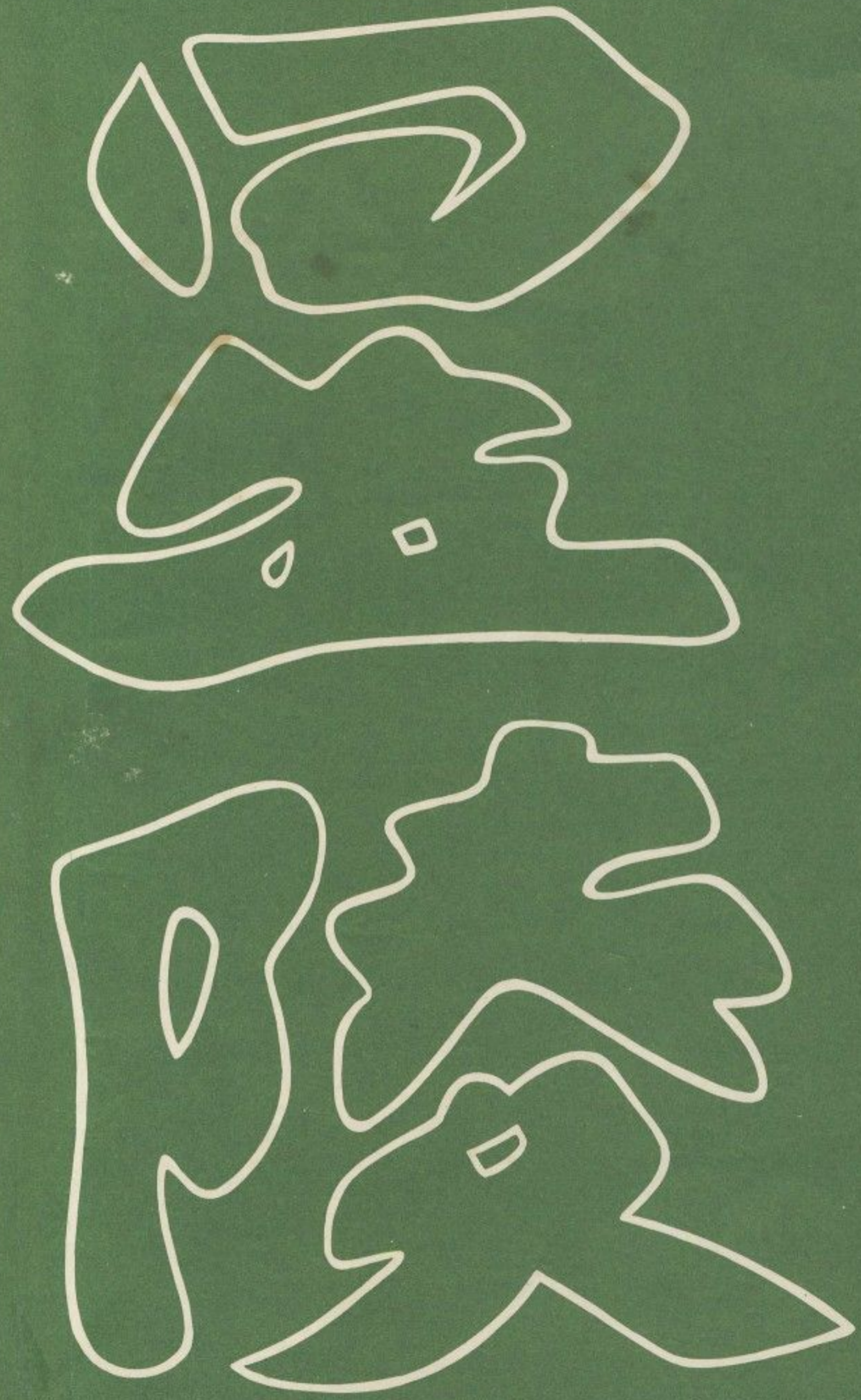


# 記念誌

|| 星陵クラブ十五周年 ||

バレーボール部



所有者  
12回生  
岡藤 清



# 記念誌

|| 星陵クラブ十五周年 ||

バレーボール部

## 発刊のことば

星陵クラブ結成以来 15 周年を迎えるに至った。1 世代 30 年というが、ここに星陵クラブの 2 分の 1 世代を綴ってきた者は、先輩が情熱を注ぎ、青春を賭けたものを継承し、護持しえた者のみである。我々は星陵バレーボール部の伝統を語り気風を誇り合うことが出来る。

然るに、星陵クラブ結成以来の活躍を物語る資料も日々に亡失されつつある状況であり、年代を経るに従い相互に語り合う機会のない会員も存在しうる現状であれば、星陵クラブの由って生ずる所を省察し、新たなる進展に備えんが為、亦、我々が誇りと思うものを次の世代の者も誇りと思うことを願ってここにささやかながら記念誌の編纂を企てたものである。



目 次

巻 頭 の 辞	1
星 陵 の 思 い 出	兵庫クラブ監督・五十嵐慶太郎 3
星 陵 クラブ の 1 5 年	4
結 成	
昭和 33 年まで	
昭和 34 年以后	
現 役 時 代 を 語 る	10
抄 録 アンケートより	
15 周年おめでとう	
今だから言います	
我現役の頃	
現役時代の思い出	
星 陵 クラブ を 想 う	21
由って生ずる所	
星陵クラブを想う	
星陵クラブの現状に一言	
すばらしき星陵クラブ	
随 想	28
先 輩 の こ と	
バレーボール 9 年目	
体育について	
6 人 制 考	
「 拜 啓 ・ バレーボール協会 殿 」	
雑 感	
一 言 集 — アンケートより —	37
バスとは何ぞや	
トスの値打ち	
アタックとレシーブ	
サーブの打席に入る時何を考えたか	
6人制について	
チームメイトを語る	
会 員 一 覧 ( 近 況 報 告 )	44
監 督 日 誌	55

巻 頭 の 辞

星陵クラブ15周年を迎える事になり、これを機会に15周年記念誌の発刊にまでこぎつけられたのは全く喜ばしい限りである。

O.B. クラブとしてはもっとも古い歴史を持って居るクラブは数限りなくあるだろうし、星陵クラブもその昔の県商時代までさかのぼればうんと古い歴史がある訳である。然し乍ら戦後の新学制に伴うO.B. クラブとしての歴史と、又記念誌まで発刊し得る組織は他に比類を見ないものとしてO.B. 諸君は最大の誇りとしても良いと思う。

O.B. の組織の運営と云うものは実に繁雑であり、困難なものである。在学時代は居住の範囲も限られて居り、又学生という身分も同等である。学業が仮に秀でて居ても又劣って居ても、それは余り問題にもならない。特に運動部の組織の中では総てを超えて互いに一つのことを希求して集って居ると云う感覚しかない。それが学校を卒業し、O.B. と云う事になれば、まず勤務先の関係で居住して居る範囲はうんと広くなり、オーバーに云えば全国にまたがるわけである。又、実際はそうでないにしても世間一般の受取り方で考えるならば、ある者は他から羨望の目でみられる様な立場で仕事をし、又それに伴う収入も得て生活し、又ある者は不幸にして逆境に身を置き、毎日を余裕のない生活を過して居ると云う結果も出て来る。又ある者は早くに妻帯し子供も出来る。又妻帯の遅れる者もある。又、人間である以上矢張現在が大切なんだと云う事でO.B. としての連帯感を薄くして来る者もある。

この様な中で現役時代に一つの事を希求した仲間意識を持たせO.B. としての感覚は全ての環境を超えて同一であるとの考えを推進させて組織を維持運



営する事は並大抵の事ではないのである。

この困難な事をなし遂げ、今日の星陵クラブの組織を造りあげ、維持、運営出来る事は我々星陵クラブのO・B・諸君が常に星陵クラブを愛し、組織作りと運営維持に協力して来た事が最大の要因である事は多言を用いずとも明白である。O・B・諸君よ大いに威張ろうではないか我々の力を。

と同時に忘れてはならない事がある。発足以来ともすれば薄れ勝ちになるO・B・諸君の連帯感をかき立たせ、又協力度の弱いO・B・諸君をも協力せざるを得ぬ様にし向けて来た武谷君の努力である。仕事をもちながら唯星陵クラブを愛するが故のみに不平も云わず走り廻って呉れる武谷君の努力こそが星陵クラブを存在せしめたと云っても過言ではないと思う。

ここに巻頭の辞を書かせて頂く榮譽を得た機会にO・B・諸君を代表して心からのねぎらいを武谷君に送り度いと思う。と同時に今後も宜しくと頼んで置きたい。

O・B・諸君よ!! 折角ここまで維持運営して来た我々の組織である。星陵台で一つの白球を追った仲間としてだけの組織である。ともすれば自分だけ生きようとし、自分以外の者には目も向けない、自分さえ良ければ他はどうなっても良い、それ処か自分の生きる為には、他の足を引っ張ってでもはい上ろうとする現代である。この現代の中で、我々の仲間位は互に助け合い、協力し合おうではないか。そして今後も他に誇れる星陵クラブにしようではないか。

星陵クラブ 永田 章



## 星陵の思い出

極東オリンピック出場  
兵庫クラブ監督

五十嵐 慶太郎

武谷君から星陵クラブが15周年の記念のクラブ誌を出すから是非何か書けと云う事で、何か書けるだろうと引き受けて見た。所がさて書く段になって見ると発足当時の記録が何もない。(火事で綺麗に灰になったので)

と云う訳でとり止めのない書きっぷりになる事をお許し願う訳さて、前置きは之位にして本題の方に移りましょう。

私の父親のようぢい

### 1、元旦バレー

ハードトレーニングを以て日本中はおろか世界中に鳴り響いた大松日紡のチームでも元旦はお休みである。所が垂水の山の星陵では元旦からボールを楽しむ。蓋し世界一のバレーと自負してよいでしょう。現役は元よりO・Bの連中まで集ってゴキゲンである。そのあとは皆さん御存じのコンパで亦益々ゴキゲンである。武谷君あたりの努力多とするに足ると云う所です。出席した人は一生の思い出になると思います。

### 2、星陵優勝戦で龍野に敗る

場所は西宮体育館の屋外コート(今は鉄筋アパートが立ち並んで居る)ネットを張るのに荒縄でボールにと云う時代。星陵は前衛センターが海老原(永田)、左が谷本、中衛右に数井、の諸君が攻めの中心、龍野は南山(後に関学、松下電工)が中衛左でセットオールのといつまでたっても勝負がつかない。審判は確か藤田茂雄氏。星陵が1点とると龍野がとり返す。とうとう30点をこえて34-32で龍野が勝つと云うドエライ試合でした。阪本、山本の両先輩も之を見て手に汗握ってました。以後の星陵の現役遂に高校の県予選に於て決勝に進むことなく現在に至って居る。いささか淋しい感じがする。原因は負けても口惜しがらない所にある様な気がする。レクリエーションとスポーツとはその間に大きな差がある。之を混同すると伸びがにぶる。現役の諸君前記の先輩は負けず嫌いでないかあるかはよくお判りの事と思う。

### 3、技術を伴わない根性などはない

よく近頃根性だと云ってるが自分のものにした技術を持たないのに根性だと云う事はおかしい。



パスはどうか、レシーブはどうか、サーブははいるか、トスは自由にあがるか、スパイクが思う所にきまるか、ストップはどうか。之等を自分なりにこなして始めて根性が出来て来る。ボールを思う所に持って行けないバレーなんてありませんからね。6人制の攻めのフォーメーションが300通り以上あると考えた人、教えた人居りますか？頭を使わないと2米もある相手とはケンカ出来ませんよ。と之は現役の皆さんに。

最後にバレーが好きだから上手になるのか？ 或は上手だから好きになるのか？ と云う問題がありますが之は多少鶏と卵の関係に似て居る様ですが上手になると好きになる人が多い様に思います。下手で球ひろい許りやって居って、ドナラレテ余り面白くはないでしょうからね。

大分とりとめのない事を書きましたが、スポーツと云うものは一生やるものだと云う事、やる以上は身体を大切に事だと云う事を忘れないで欲しいと思います。

以上

41年6月15日午前5時誌

## 星陵クラブの十五年

### 1. 結 成

昭和27年、才2回神戸市旧中学・高校OBバレーボール大会に出場を契機に結成されたと見るのが正しいようである。星陵高校男子排球部の黄金時代を築いたメンバーの殆んどがOBにそろった年である。この時のメンバーがその後の星陵クラブの活躍にも永らく貢献し、「星陵のバレーボール」を作り上げていたのである。尤も、当時は旧県商の先輩も参加しておられ、坂本さんや、山本さんは全国優勝した全兵庫のメンバーで、その後都市対抗で永らく活躍した兵庫クラブのメンバーでもあった。ついでながら山本さんは、当時既に国際式のアンダーパスであり、組手パスの元祖といえる人である。

山本式アンダーパスは機関式「バレーボール」にも紹介されたことがあるが、当時のメンバーは少なくとも一度は「バレーボール」に掲載された経験を持つ人ばかりであった。即ち「バレーボール」には毎年有名高校バレーボールの進路予想記事が特集されたからである。当時の星陵クラブには、その進路が注目される程の優秀なメンバーがそろっていたのである。そしてその後東西対抗、大学リーグ戦、都市対抗等に(出身校・兵庫県星陵高校)が活躍したのである。

### 2. 結成より昭和33年迄

当時の星陵クラブは学生が殆んどであった。従って大学の試合があるとメンバーがそろわない

為、出場できる試合は限られていた。しかしメンバーがそろって出場した大会は全部優勝したと  
いっていい。前衛に永田・谷本・宇野・吉川のコンビ、中衛に数井・田中(基)・八木の攻撃陣、中衛  
中衛センター三島・後衛柏木、田中(昌)・浜地のレシーブ陣と誠に豪華なメンバーであった。  
もし出場しておれば、県大会でも優勝できたであろうし、全国大会でも相当の活躍が出来ただろ  
うにと惜まれる。星陵クラブの特色は、全員が同じバレーを体得しており、実行できたというこ  
とではなかろうか。従って2,3メンバーが替ってもチーム全体のプレーには何の支障も生じな  
いように感じられた。

この間の戦績として、みなと祭一般男子の部で3年連続優勝、OB大会で2連覇を含め3回優  
勝があるが、記録がないので詳細は分らない。

### 3. 昭和34年以後

この頃星陵OBはその数も30名を越すようになり、そして殆んど社会人で構成されるようにな  
っていた。そこで会員間の親交を深める為にも、連絡係を定めて、会費の徴収や、試合参加の  
便に当ることになった。この年よりオープンで参加できるあらゆる大会に出場するようになり、  
年に5回は試合をするようになった。これより記録を辿り星陵クラブの今日迄を振り返ってみる  
ことにする。

#### 昭和34年

4月19日 才9回朝日バレーボールC級1  
組(王子)  
1回戦 交通局 1-2  
準決勝 三菱電機伊丹 2-1  
4月28日 会費徴収に関する挨拶状発送  
5月10日 才1回神戸市民体育大会  
B級(王子)  
1回戦 不戦勝  
準決勝 三ツ星調帯 { 21-19  
10-21  
21-18 }  
8月 7日より現役合宿に参加  
10月11日 みなと祭にそなへ練習  
10月18日 みなと祭中止(伊勢湾台風の為)  
10月31日 才1回神戸バレーボール

#### C級1組(明石)

準決勝 神戸製菓 2-0

11月15日 才9回 OB大会 (星陵)

トーナメント2回戦

県工OB 2-1

#### 昭和35年

1月 1日 新春打初会 (星陵)

1月15日 OB総会 (大力荘)

[出席者 永田、数井、吉川、  
田中昌、浜地、松本健、斉藤、  
吉田、武谷、森本、稲葉、  
斉藤、松本宗]

3月27日より現役合宿に参加

34年  
<この時自分は高校3年生>



昭和35年

4月17日 オ10回朝日バレーボール  
C級1組(王子)  
1回戦 湊川OB 1-2  
準決勝 交通局 2-1  
(交通局で塚本活躍)

7月 7日 会員名簿発行

10月16日 みなと祭バレーボール大会  
(王子)  
1回戦 葦合区(神鋼) 2-1

11月 3日 オ2回神戸バレーボール(王子)  
A級(現役)  
A級1回戦 積水化学 2-1  
B級(OB)  
B級1回戦 2-0 川上塗料  
2回戦 2-1 湊川クラブ  
○決勝戦 2-0 神鋼フアウドラ  
[参加者: 谷本、永田、数井、田中基、田中昌、松本健、吉田、武谷、森本、稲葉、楠田、円藤 12名]

11月27日 オ10回OB大会 (星陵)  
2-1 県工 2-0 神戸  
2-0 エトランゼ○決勝 2{<sup>23-21</sup>/<sub>22-20</sub>} 0 兵庫  
6時より祝賀会(江戸屋)  
[出席者: 永田、谷本、数井、宇野、田中基、田中昌、吉川甲、三島、松本健、吉田、武谷、森本、稲葉、松本宗、楠田、円藤、島田 17名]

1月 1日 新春打初会(星陵)

1月29日 OB総会(大力荘)  
[出席者: 永田、数井、谷本、宇野、吉川甲、

吉田、武谷、松本宗、島田、円藤、楠田、大久保、塚本 13名]

3月28日 名簿発行

昭和36年

4月16日 オ11回朝日バレーボール  
B級2組(王子)  
1回戦 2-0 交通局  
2回戦 2-0 住友商事  
○決勝戦 2-1 関学高OB

5月21日 オ3回市民体育大会  
C級2組(王子)  
1回戦 不戦勝  
2回戦 2-0 オニッカ

6月21日 決勝戦 不戦勝(太田中学)  
[参加者 2回戦 武谷、稲葉、松本宗、楠田、大久保、藤岡、森本弟、決勝戦 武谷、松本宗、藤岡]

8月11日 現役合宿

9月3日 OB大会にそなえ練習(参加者10名)

9月24日 オ11回OB大会  
星陵OB主催(星陵)  
神戸商0-2 湊川2-1  
エトランゼ2-0

10月1日 みなと祭(王子)  
東灘(灘高クラブ) 2-1  
参加者 11名

11月3日 オ3回神戸バレー 雨天延期  
8名集合

11月23日 神戸バレーにそなえ練習  
参加者 8名

11月26日 オ3回神戸バレー B級(王子)  
1回戦 2-0 日本エャブレーキ  
2回戦 2-0 三菱電機神戸  
○決勝戦 2-1 神戸市交通局  
[参加者: 田中基、吉川甲、武谷、吉田、森本、稲葉、楠田、円藤、塚本秀、藤岡、(塚本雅、三宅、今井)]  
4時より祝賀会(江戸屋)

昭和37年

1月1日 10周年記念正月大会(星陵)  
[出席者: 谷本、松本健、吉田、武谷、森本、稲葉、北村、楠田、円藤、塚本、藤岡、五十嵐先生]

1月14日 OB総会(扇港荘)  
[出席者: 永田、数井、谷本、吉川甲、宇野、田中基、田中昌、浜地、武谷、森本、稲葉、楠田、藤岡、塚本]

3月末 現役合宿に参加(参加者13名)

4月15日 オ12回朝日バレーボール  
B級1組(王子)  
1回戦 0-2 神戸製鋼 参加者12名

5月20日 オ4回市民体育大会 B級1組  
1回戦 三菱電機神戸 2-1 参加者9名

8月12日 練習 参加者11名

8月23日 現役合宿に参加

10月7日 みなと祭(王子)  
1回戦 2-0 東灘(神商クラブ)  
2回戦 1-2 兵庫(阪東クラブ)  
参加者 11名

11月4日 オ12回OB大会(湊川高)  
県工2-1 市神港0-2 エトランゼ0-2

決勝戦 県工 2-0 参加者 11名

11月4日 総会(電々会館)  
[出席者: 谷本、数井、浜地、吉田、武谷、森本、楠田、円藤、塚本秀、藤岡、中島、山口、山崎]

11月25日 オ4回神戸バレーボール  
B級(王子)  
1回戦 不戦勝  
2回戦 三菱電機A 0-2  
決勝戦 神戸高・神鋼クラブ 2-1  
[参加者: 谷本、数井、吉川、宇野、武谷、森本、稲葉、藤岡、楠田、円藤]

昭和38年

1月1日 新春打初会 参加者10名

1月13日 総会(明石本町寮)  
[出席者: 谷本、永田、数井、宇野、浜地、吉田、武谷、森本、稲葉、松本宗、楠田、円藤、塚本雅、山崎]

4月5日 名簿発行

4月7日 朝日バレーにそなえ練習  
参加者8名 五十嵐先生

4月14日 オ13回朝日バレーボール  
B級1組(明石)  
1回戦 柴田ゴム 1-2  
準決勝 神鋼高砂 2-1

5月1日 永田会長 激文飛ぶ

5月12日 現役、市内選手権獲得す(神戸商にて)  
祝勝 夕食会(三宮みかど食堂にて)  
(出席者 14名)

5月19日 オ5回市民体育大会 雨で中止



9月8日 臨時総会 (明石 本町寮)  
 [谷本、永田、数井、八木、武谷、森本、稲葉、藤岡、塚本、楠田、山口、小野、(服部)(吉田)]

9月22日 みなと祭 垂水区予選  
 塩遊会 0-2  
 [永田、吉田、武谷、森本、稲葉、円藤、藤岡、中島、塚本、三宅、小野、畠山、松山]

9月24日 才13回OB大会 (県工)  
 市神港 1-2 神商 0-2  
 県工 2-0  
 [参加者: 谷本、永田、数井、吉川甲、吉川満、吉田、武谷、森本、稲葉、楠田、藤岡、塚本秀、中島、山口、三宅、小野、今井]

10月19日 みなと祭  
 垂水区 2-0 生田区(湊川クラブ)  
 〃 0-2 長田区(県工OB)  
 [参加者: 谷本、田中基、宇野、吉田、武谷、稲葉、円藤、塚本、楠田、藤岡、三宅、須磨区 数井、森本、山口、中島、山崎、現役]

11月3日 才5回神戸バレーボール  
 B級1組(王子)  
 OB 2-0 日本油脂尼崎  
 OOB 0 { 20-22 } 2 SOB  
 [参加者: OB-谷本、永田、吉川、数井、森本栄、稲葉、中島、三宅、(松山)  
 SOB-楠田、円藤、塚本秀、今井、小野、(笠原、森本善、服部)藤岡、武谷]

昭和39年

1月1日 新春打初会 出席者11名、五十嵐先

生

1月15日 総会 (六甲山荘)  
 [出席者: 谷本、永田、宇野、吉田、武谷、森本、稲葉、楠田、藤岡、(笠原、服部、森本弟、松山)]

3月22日 才14回朝日バレー  
 王子B級 1回戦 積水化学 2-0  
 [谷本、永田、吉田、武谷、森本、稲葉、柿沼]  
 明石 B級  
 1回戦 2-1 大和製衡  
 2回戦 2-0 三菱製紙高砂  
 決勝戦 2-0 神鋼高砂  
 [楠田、藤岡、中島、山口、小野、三宅、笠原、森本弟、塚本弟、(松山、平井)柿沼、塚本兄]

5月17日 練習 参加者10名

5月24日 才6回市民体育大会 (西代)  
 B級 1回戦 2-1 YMCA  
 2回戦 2-0 神戸工業  
 決勝戦 2-0 三ツ星ベルト  
 [谷本、永田、楠田、山口、藤岡、稲葉、森本兄、塚本兄、森本弟、武谷]  
 C級 1回戦 滝の茶屋クラブ1-2川重A  
 [吉田、中島、畠山、三宅、小野 (五十嵐、西野、田中徳、兼田)]

8月30日 才14回OB大会 (県工)  
 県工 2-1 神港エトランゼ 0-2  
 県工 2-0

9月13日 みなと祭  
 垂水区 0-2 東灘区(神商クラブ)

須磨区1-2長田区(長田球友会)

9月13日 現役市内優勝祝賀会(みかど食堂)  
 11月3日 才6回神戸バレーボール  
 B級1組(西代)  
 1回戦 丸山クラブ 0-2  
 2回戦 兵庫教員 2-1

昭和40年

1月1日 新春打初会 参加者15名、五十嵐先生  
 3月14日 OB総会(垂水、研修寮 臨海荘)  
 [出席者: 永田、谷本、武谷、吉田、稲葉、藤岡、楠田、円藤、中島、山口、柿沼、塚本兄]

4月4日 現役合宿(参加者 10名)

4月18日 才15回朝日バレーボール B級(王子)  
 1回戦 阪東ベルト 0-2  
 2回戦 川鉄 0-2  
 決勝戦 税関 2-0  
 [参加者: 吉田、武谷、森本兄、楠田、円藤、藤岡、中島、山口、三宅、山崎、笠原、畠山、森本弟、松山]

5月9日 才7回市民体育大会 A級(王子)  
 1回戦 神鋼フアドラー 2 { 18-21 } 1  
 21-19  
 21-10  
 [参加者: 数井、宇野、吉田、武谷、森本兄、楠田、藤岡、山口、三宅、笠原、畠山、松山]

8月8日 練習 参加者8名、五十嵐先生(西代)

8月15日 才15回OB大会 (市湊川高)  
 2-1 葦合 2-0 湊川 0-2 県工  
 (参加者、14名)

9月5日 OB幹部会 (グリル松阪)  
 [出席者: 永田、吉川、三島、宇野、吉田、武谷、森本兄、楠田、円藤、藤岡、中島、及び

野球部OB沖氏)

9月9日 学校側と会談す (星陵)  
 [出席者: OB側 永田、吉川、武谷、楠田、学校側 藤原元顧問、阿部前顧問、仁尾現顧問、植村体育教育]

9月26日 OB総会 (天京)  
 [出席者 永田、宇野、田中基、浜地、吉田、内橋、武谷、森本兄、稲葉、円藤、楠田、大久保、塚本、中島、藤岡、山口、山崎、畠山、森本弟]

10月10日 OB総会報告書及びOBの要望事項発送

10月17日 みなと祭 中止

11月3日 才7回神戸バレーボール  
 B級1組(明石)  
 1回戦 2-0 武田薬品高砂  
 2回戦 2-0 大和製衡  
 ○ 決勝戦 2-0 神鋼高砂  
 [参加者: 谷本、田中基、吉田、武谷、森本兄、松本宗、円藤、藤岡、塚本、山口、三宅、森本弟、(現役)五十嵐先生]

昭和41年

1月1日 新春打初会

3月12日 OB総会 (スカイサントリー)  
 15周年記念誌発行決定  
 [出席者: 永田、宇野、田中基、吉田、武谷、森本、楠田、円藤、藤岡、山口、山崎、柿沼、森本弟、長谷川、伊藤]



# 現役時代を語る

## 抄録 現役時代の思い出

昭和24年 炎天下コート作りに励むこと。

垂水海岸より砂利を大八車で運ぶ等、本格的工事の未完成す。

昭和25年 国体予選決勝、対竜野の一戦延長戦の日本高校記録樹立。

昭和26年 覇権獲得ならず。全員断髪すること。

近畿大会決勝戦 月下の激斗となる。

昭和27年 OB最強時代の合宿の激烈さ。県大会で敗れるや、直ちに星ヶ丘に登り、1チーム分のOBに日没迄シゴかれること。

されど成績は市内2位をもって終ること。

昭和29年 国体予選準々決勝、2年前の宿敵赤穂を2セット共10点以上の差を追い上げジュース、ジュースで破り、全員喜びの余り泣くこと。

市内大会決勝で神戸に雪辱ならず。

昭和30年 市内リーグ戦始る。

昭和34年 市内リーグ戦で優勝。

朝礼でクラブ活動の範として校長に賞される。

昭和37年 6人制はじまる。

昭和38年 市内優勝

国体予選でインターハイ出場校県尼崎を破り3位になる。

実に9年ぶりの上位進出であった。

昭和39年 劣勢を予想されながらも、市内大会二連覇なる。

## 忘れ得ぬこと アンケートより

対竜野の一戦

「あの試合だけは終生忘れ得ないだろう。監督として作戦のミスが一番の敗因だったが、同時に名門竜野高の伝統の力にも敗れた様な気がします。星陵にも伝統を築くことが夢でした。」

-小林 二郎-

「病後の為試合には出なかったが、息づまる接戦で夢中で応援した。」

-浜地 克己-

「入部して間もなく、直接試合には出なかったが、32対30で負けたことは強く印象に残っている。」

-松本 健嗣-

## 四回生

春の全日本予選対神戸高校に敗れた事。

秋の国体予選対長田高校に敗れた事。

秋の近畿大会決勝対京極高校に敗れた事

-八木 弘-

「26年秋、近畿大会決勝戦、暗くなって殆んどボールが見えなくなる迄試合をした。」

-浜地 克己-

「思い出の試合と言えば、例の対竜野の一戦と、現役3年生当時の国体予選対神戸高校との準決勝戦、そして、吉田、武谷氏現役3年生時代の監督をしたことは忘れ得ぬことの一

つである。」

-宇野 一成-

森本栄一時代

1年生の夏休み合宿をすると云うので、毎日ベントウ下げて1人で40日間練習し、結局合宿がなかった事。本当に残念だった。

長田高校がオールジャパン出場、その時練習試合をして長田高校に勝ったこと。

21-19 21-19 であった。

-森本-

## 十二回生

昭和33年秋、海老原先輩(現永田氏)監督に就任、昭和34年市内リーグ戦に優勝の時、対神戸商戦 24-22 1-21 27-25 で勝ったこと。

城崎での近畿大会で敗退し、なさけなかった気持ち。

島田君とのコンビで、初めてバクトスのクイックを成功させた時のこと。

-楠田 良輔-

「初めて近畿大会という大きな試合に出て実力を出し切れず、初戦にして敗れて、くやしかったことが、今だにわすれられない。」

-島田 勝和-

## 十三回生

2年生の秋、星陵体育館に於いて当時リーグ戦の二部、一部入替戦の試合で、対湊川戦で相手チームの策略にかかり負けたこと。

2年の冬、あの寒い中、残り少ない人数で冬季練習を乗り越えたこと。

-塚本 秀男-

高校3年になって初めてレギュラーになった時のうれしかったこと。

-中島 正人-

初めて出た神戸高校との試合。

2年の時、雨の為殆んど暗くてみえない状態でやった試合。(対神戸商 1対21)湊川との入替戦。 -藤岡 義典-

「仕方のないこととはいえ、あの審判(湊川)のことは忘れない。」

-山崎 典雄-

## 十四回生

県大会での対芦屋戦で、新聞に写真が出たこと(見事なストップの瞬間) -山口- 市内大会準優勝 -柿沼、山口、山崎- 一年生の時の城崎での近畿大会 -山崎-

## 十五回生

対明石南高との練習試合に連勝したこと。

## 十六回生

-小野 徹太郎- 3年生の時神戸高校を破り優勝した時のこと。 -森本 善之-

## 十七回生

3年生の時市内大会で優勝した時の対兵庫、対葦台の試合 -松山 誠二-



## 星陵クラブ15周年記念おめでとう

谷 本 好 隆(昭和26年卒業)

星陵高校時代のいろいろな思い出がまだ最近のように感じられますが、早いもので卒業して16年が過ぎたのです。在学中の面白いお話を数ある思い出の中から少し紹介します。

- 1、昭和24年の夏、コート of 整備のため夏休みを返上し作業をする。(この作業のため病気になる者もあったよう。)
- 2、昭和25年の夏の合宿、イモ泥棒、屋上でのスキヤキの件。(キャプテンだけお説教、可愛想に)
- 3、昭和26年の夏の合宿、訪問者多し、退学処分一步手前。(これだけいえば思い出す人少なからず。)
- 4、昭和25年国体県予選の優勝戦で対竜野高校とセット1対1となり、3セットジュースを続けること10数回、結局34対36で優勝を逸した。(くやしくてその時涙も出なかった。)
- 5、昭和28年頃の合宿、赤インク事件あり。  
(犯人は誰だ!)

(一言)

最近の星陵高校バレー部の衰退ぶりは少しひど

### 「今だから言います」

武 谷 和 夫(昭和30年卒業)

今から話すことは「マジメな話」編である。

○

中学生の頃、サッカーがやりたかった。しかし、

すぎる。15周年記念を転換期として現役と先輩が一致協力して神戸のバレー界を引張って行きたいものだ。

9人制から6人制に移ってから一般にアンダーパスを多く行なうため、パスが皆んな悪い。パスこそバレーボールの基本であることを忘れていた。なぜなら試合はサーブから始まり、サーブレシーブをする。次に二段トスをする(セッターが入りトスをする)。いくら強力なスパイカーがいても、トスがわるければ強力な攻撃は出来ない。だから練習方法としてサーブとパスを完全にマスター出来たら県下での優勝も夢ではないと信じている。さらに、まだ高度なバレーを要求するならばこれに体力、技術、根性、この三要素が完全に調和し、保たれた時こそ全国大会にて大活躍をする時であろう。(少々いい過ぎましたかな。失礼い)

近 況

- 1 昨年5月長男を亡くしました。
- 1 昨年11月近畿電気通信局才二建築部へ転職しました。TEL 大阪 442-2713

残念なことに歌中にはサッカー部はなかった。放課後になると、職員室からボールを借りてきて皆でサッカーらしきものやって走り廻って

た。級友にバレー部のキャプテンになりたてのターちゃんというのがいた。彼に入部をさそわれ、バレー部員となる。2年の冬であった。3年の時学校にはコートが一面しかなく、女子と1日交替で使うことになった。コートが使えない日は分校(今の垂水中学)へ出張することになっていたが、星陵で練習させてくれへんやろかということになり、ゾロゾロと星陵へ登った。ただただ見とれていただけであった。何回も星陵へ出かけたが、相手にしてもらったのは1、2度扇形パスをしてくれただけであった。それでもスゴク嬉しかった。しかしそのお影でか、歌中バレー部初めての優勝(但し、市内B級)を我々はしたのである。

当時星陵高校は有名校であった。地元歌中から星陵へ進学することはよく出来ることの証明であった。星陵には歌中の先輩が沢山いた。バレー部の先輩の1人は理研部にいた。自分もそうするつもりであった。歌中バレー部から星陵へ入ったもう1人の吉田は入学試験のずっと前から星陵の練習に参加していた。自分も勿論バレーをする意志が全然なかった訳ではない。しかし伝統ある星陵バレー部に入部するという事は話が別だった。オリエンテーションの後で書く入部届は理研部にしてあった。百米に16秒を要する当時の自分の運動能力から考えても、天下の強豪星陵バレー部の一員となるには相当の覚悟が必要だと思っていた。勉強とバレー以外はなんにも出来ないだろうし、自分が秘かに決めている進路をとるにはなおさら一層の努力が必要になるに違いなかった。——何を隠そう、京大を狙っていたのだ。東大は小学校の時から嫌いだったから——。バレー部員に、特に

歌中の先輩には顔を合さないよう毎日気を使っていた。

逃げ廻っていたといってもいい。

しかし、入部の勧誘は激しかった。多少でもコーチを受けたりした先輩であるだけに、うまく逃げることはしんどかった。ついに諦めて入部した。忘れもしないが松本先輩に部室へ呼び込まれて、そこで入部届を書いたのである。入部してしまえば要領よくサボるなどということとはようせんから——この点は松本先輩にもっと見習っておけばよかったのだが——バレーに一生懸命になることは分っていたが、他のことは何とかなるだろうとも思った。

○

新入部員の中で内橋とは家が近かった。日曜日で練習のない時には、2人だけで練習に登っていった。パスやサーブに飽きると、体育館のドアの突支棒をバットにして、バレーボールで野球をした。当時のマネージャーはボールの管理にうるさく、蹴ったりするのは勿論のこと、ちょっと地面についても注意していた。誰もみてない所でバレーボールを棒でなぐるのは愉快だった。

今から考えると当時はOBが最も強力であった頃だから、現役のしぼられ方も一段と激しかった時代かもしれない。しかし、自分には星陵バレー部であればこれくらいの練習はやるのだろうという位の感じであった。バテた時に備えてコートサイドに水を入れたバケツを並べての夏の合宿や、試合に負けるとすぐ星陵へ帰り、練習をして尚「止め」と言われる迄運動場を何



回も駆け足で廻ったことも、星陵バレー部員には別に驚くべきことではなかった。

入学して最初の実力考査の成績がよすぎた。それで勉強しなかった。2回目の実力考査で百番位下った(普通科200名中100番下る余裕のあったことに御注意)。大いに慌てた。大いに勉強しようと思った。しかし定石通り1度下ったものはなかなか戻らなかった。一方バレーの方も、夢中でシーズンの終りを迎えたが、一向に自信めいたものも湧いてこなかった。途中でやめるのは何としても嫌だったが、涙をのんでバレー部をやめようと思った。そうこうするうちに、冬になり常時練習に出てくるのは4、5人になっていた。やめるにやめられなくなった。部員でありながら理由もなく練習をさぼる者をけしからんと思った。

4月になり内橋が正式に退部願を出した。最後まで一緒にやろう、やめる時は一緒だぞなどと言っていたのに勝手にやめやがったなと思った。そこで一大決心をした。家へ帰ってノートのお1頁に大きく「クラブ活動と勉学の両立」と書いた。机をわざとグラグラにして、更に不安定な花瓶を置いて居眠らない細工をした。緊張していないと水がこぼれるという仕掛である。2年生になると内橋と同クラスであった。互に成績を見せ合ったが、不思議に1番違いの大接戦であった。もうチョイで1桁突入という処までいった。このままなら神大、がんばって阪大、京大はまだまだだと思った。

○

大橋中学からの新入学した古角を入部させるの

に吉川主将と親に会いに家まで行った。1年前の自分が勧誘から逃げ廻っていたことなどコロッと忘れていた。

バレーの方はまず1人で練習できるサーブのものにしようと、星陵の伝統たるドライブサーブのマスターに腐心した。機関紙「バレーボール」に首筋の力を使えとあったので、首を折り曲げるのに骨を折った。大学のリーグ戦等よく見に行った。その頃は、関西六大学リーグ戦の最も華やかな時代であったと思うが、星陵の先輩も沢山活躍していた。自分が見るのはもっぱら自分と同じポジションの選手であった。

県大会は1回戦で優勝校竜野実業に負けた。レギュラーになって初めての大きな試合であった。1年の時、メンバーチェンジで出してもらっていた時の方がもっと気楽にやれたのと思った。ウロチヨロシただけであった。練習は一番きつかった1年生の頃が、星陵バレー部の3年間の中で、一番楽しいクラブ生活であったと今でも感じられるのは何故だろうか。

そのシーズンが終ると、吉田が主将となり、部員も1チーム分残っているし、来年こそは星陵の強さをみせてやろうという気になっていた。然し、2年生は吉田と2人だけ、1年生にやめられては困るから、気嫌とりとり、「星陵は伝統があるのだ。我々は強いんだ。」と、いふなれば暗示にかけながらシーズンオフをすごした。事実、練習試合に負けたことはなかった。余談ながら、県工と2、3度練習試合をしたが星陵に負ける度に「今に星陵以上のチームにしてみせる」と中村顧問は思っていたのだそうだ。

さて、いよいよ高校最後のシーズンを迎えた。市内予選はなんとか勝ち、県大会には出たものの早々に破れ、ショックの上に、星陵とはなじみの神戸高が優勝するのを見て、全員奮気することになった。「今までが気楽すぎたんだ。夏の国体予選まで気合を入れて優勝を！」ということになった。我々3年生にとって、2年生がその気になってくれたことは雨降って地固るの諺どりに思えた。それから気合が入ったかどうかは知らないが、休みなし、速足、映画観賞はボイコットして練習という調子で、昼休みは勿論、朝7時に登校してサーブ練習をして、全員がダブルファーストを打つことをめざした。ただ、先輩が登ってきてくれることが大変少なくなっていたのが非常に心細かった。

いよいよ国体予選が始った。嘗てなかった絶好の組合せになっていた。試合が近づく先輩が来てくれるようになった。全員優勝を目指すことになっていた。しかるに「がんばってベストエイトには入れよ。」という先輩がいた。大いに不満であった。

2回戦か3回戦目かに三田学園と当たった。練習試合の経験もあり、相手の力は或程度わかっていたが、終ってから水飲み場で三田学園の選手が「星陵に10点とれたんやから、ええで」と話し合っているのが聞えた。星陵バレー部という名の持つ重みを今更ながら知らされた気がして、襟を正す気持ちというより、何か冷たいものが背筋を走った。(この表現、決してオーバーではありません。)

国体予選は2日間で行なわれた。オ2日目も

順調に進み、いよいよ赤穂と対戦することになった。2年前、赤穂に負けた試合のことは強く印象に残っていた。巨漢のH.L.がおって、吉田が上げた1本を除けば、彼のスパイクは全部赤穂の得点になった。——再び余談ながらそのH.L.は関大へ進み、柔道4段になった。吉田主将と2人で一生懸命吹き込んだので全員が「赤穂は2年前の宿敵だ」ということになっていた。赤穂もこの年優勝を狙っていたとかで、今から思えば、星陵よりずっと粒揃いの好チームであった。バックはよく鍛えられて堅固だったし、アタックは前、中衛両翼共強力であった。強いていえばこのアタックがオールラウドであるということが一面では弱点ともいえた。対する当方は、サーブと古角のクイックだけが戦力であった。一応外のアタックもあるのはあったが、F.C.が1年生だった。ジャンプトスが出来ず、手を顔の前に出して「ここへスーともってきてもらわんとようしませんねん。」と半べそで言い出す始末であった。ただ古角と大橋中学でコンビを組んでいたことと、後に名H.C.吉田が居ることが頼りであった。チャンスメーカーとなるべきバックセンターとしても大いに気を使った訳である。

試合は2セット共挽回してシュースになって勝った。あわやダブルタカと思われた中村のセカンドサーブがネットの手前でヒョイと浮いて入り、ポイントとなり、まさかと思った三股がフェントをすればあざやかに決る等大いにツキまくつて1セットは取れた。2セット目は古角は4人掛りでマークされていたが、レバンドを始



めたら、相手がオーバーネットの続出で、一方増田が1セットに続いてエースを連発する等サーブで大いに活躍して挽回できた。それ以上詳しい経過は憶えていないが、兎角1点取るのに物凄く永い間ラリーが続いて非常にしんどい試合だった。悪天候の為、会場が星陵体育館であったことは我々には誠に有利であったが、声援も激しく、ラリーの続く間ワーワー、キャーキャー大変だったのだろうが、ポイントのホイッスルがなる迄はその騒音も耳に入らなかった。サービスエースを除けば1点を取るのが本当にしんどい試合だった。

自分のプレーで憶えているのは、ファーストサーブを失敗し、当然のようにリーチを掛けた処、全くの当りそこないでヒヤとしたが、ポイントとなった。次のファーストも亦失敗、今度こそと思ったがベンチで宇野監督が必死に手を横に振っていた。仕方ないわと安全サーブを行なうところが亦冷汗ものだった。ここで自分が風邪気味で調子が悪い事を思い出した。スポーツマンが試合を控えて風邪を引く等ということは恥だと思っていたから甚だ残念だった。得点のことはよく憶えていないが、宇野先輩に今聞くと、17対4位から挽回したそう。こんな試合の監督をした為に、今でも、タツタ電線の監督をしていてタイムの取り方が遅すぎると人に注意されるんだそうだ。その内に挽回するのではないかという気になるそうだ。

準決勝は神戸高校へ会場を移して、相手も神戸高であった。自分のバレーボール歴の中で赤穂戦程1試合中気を張りつめていた試合は外に

ない。その疲れが、神戸高校へ移動する間に一遍に出てきて、神戸高校の旧体育館についた時には、オーバーに言えば全員立っているのがやっとなかった。しかも、あの神戸高校への登校道の急坂——バブリカはローでないと上らない——を走って上ったのだ。神経だけは勇んでいたし、実に純情であった我々は坂の下で待っていた大会役員——今久保先生だった——に「おお、星陵よ、神戸は上で永いこと待るとるやぞ、皆早いこと上れ。」と言われると、思わず走り出したのである。嗚呼。

そういう訳で神戸との試合は、今でもあの時のメンバーをお互にそろえてもう一度やりなおしたいと思う程残念である。兎角、自分の正面にサーブが飛んでくるので手を出すと、それより先にボールは顔にはね返っていたという状態であった。サーブは力一杯打ったら、今で言う変化球がようやくネットの辺迄飛んでいった。無性に水を飲みたかったが、近くに水道は見当らなかった。試合終了後ようやく水道を見つけたが、飲むと生ぬるい水で益々気が滅入った。付いてくれていた沢山の先輩が、試合終了後決勝戦との合間を利用して神戸高校のOBと一戦交えることになり、「お前らの仇取ったるからな。」と言ってくれたが、いつもなら観戦がてらボール拾い位はしなければならぬところだが、それどころではなく、一刻も早く家へ帰って楽になりたかった。星陵に10点取れたと喜んでいて三田学園のバレー部がわざわざ神戸高校までついてきて応援してくれた。これも普通なら大いに感激するところであるが、ふぬけの

ようになってろくに挨拶もしないで別れてしまった。負けた口惜しさもさることながら、スタミナのなかったことが残念だった。もっと冬に走っておけばよかった。なんで風邪を引いたんや、バテるとは恥ずかしいやないか……。兎角その日から1週間は力がぬけてしまったようになって何をやる気もしなかった程の残念さであったのだ。

応援のことが出たついでに女子応援団を忘れてはなるまい。これも星陵から神戸高校迄ついてきた訳だが、試合の翌日、吉田主将は応援してくれた女の子を見つけ次才礼を言って廻っていた。彼はそういうことにもマメであった。ついでに歌中の馬田先生の処へも赤穂との試合のレフリーの時によくオーバーネットを取ってくれたことの礼を言いに行こうと言い出した。

○

神戸に負けたことは残念であったが、兎角ベスト4に入り、3位の賞状を手にした。星陵の伝統を護れぬ迄も何とか辱しめることなくすんだと思い、本当にヤレヤレという気持ちであった。肩の荷が少しは降りたという気がした。今になって冷静に思い返せば、よくもあのメンバーであれだけの試合をし、あれだけの成績を上げられたものだと思う。そこは伝統の力だと言えるかもしれないが、そうだとすれば今の現役に迄はその伝統の力が及んでいないようであることは気の毒に思う。いずれにせよ我々としては最高の試合と、続いて最高の残念さを経験した。星陵バレー部員であったお影である。

もう一つ今になって思うことは、あの時本当

に優勝する気であったのなら赤穂に勝っただけであんなに喜んでしまわなかつたらと思う。実をいうと全員泣いて喜んだのである。あの時の写真でもあれば面白いのだが、うれしくて泣くとは余程センチな奴だと思っていたのだが、2年生が泣き出し、続いて吉田が涙をこぼすのを見ていると、それ迄「ようやく勝ったなあ」という位の気持ちしかなかった小生も、とうとうないちゃったのである。あんまり喜びすぎて何もかもすんでしまったような気になって肝心の神戸に敗けてしまったのかもしれない。しかし大した試合だったと思う。

入部した以上、最後迄やろうと思ってはいたものの、形の上では入部勧誘から逃げ切れず入ったバレー部であったが、天下の星陵バレー部のバックセンターをなんとかやらせてもらえたし、特にサーブは最重責の2番を打たせてもらえたし——お影で当時県下の実業団ではAクラスであった山陽電鉄へ入っても自信をもってやらせてもらえた——、100米も16秒ということはなくなったし、1,500米は3年間クラスでいつもトップになれたし、後輩にエエ恰好言う術も憶えたし、その他、チームワークとは、結局は他人のことは頓着せずに自分のことだけ一生懸命考えて、そしてやらないかんだという、民主々義の原理みたいな人生観を分らせてくれたし、兎角バレー部には「お影さまで」と礼を言わねばならないことが沢山ある。

亦、進学の方は事情でストレートに大学へ行くことは出来なくなったが、これももしバレーをせずに進学1本でいたら、救われない気持ち



だったろうと思う。ペースが乱れたらツキが戻る迄守りを固めて、チャンスを見て巻き返そう。未だに巻き返せず仕舞であるが。とバレーの作戦のセオリー通りにすることにして、その間夜学へでもいっとこかと外大へ通った訳である。受験生のいう「灰色の高校生活」でなかっただけでもよかったと思う。

なににしても、一つの事に夢中になって努力し、真剣だった純真なあの頃は懐かしい。今はそのバレーでさえあんな純真な気持ちでやることは出来ない。伝統を護るという自負もさるこ

とながら、「努力せよ、さらば報われん」を信じてバレーに打ち込んだあの頃の気持ちは本当に貴いものに思える。そしてそんな純粋な努力だけでは通りにくい実社会にあっても、これを貴重な心の糧として忘れないでおきたいと思う。



読み返せば少々面映い思いもしますが、10年一昔も前の話と、今だからお聞き頂くことにしました。

(「不マジメな話」編は亦今度)

## 我 現 役 の 頃

森 本 栄 一 (昭和33年卒業)

自分がバレーを始めたのが中3の時に、バレーボールと云うものに中3の時にもうすでにとりこにされていた様でした。高校の入試の方針を決めるのに長田高校と星陵が校区でしたが始めから星陵に入る気持ちでした。自分の家に取っているのが神戸新聞でしたがバレーボール高校大会の成績が良く出ていたので星陵にとの決心が一層強くなり、バレーを才1に、そして勉強が才2にと思い、早々に練習したいと思い入学試験が終ると観桜会に各部の勧誘があり、才1番にサッカー部に勧誘されたが、自分の心はバレー部と決めていたのに体育館はバレーをしておらず、運動場を見廻してもただ淋しくボールが立っているだけで、伝統のあるチームが一体どこで練習をしているのかと思い、その時の

気持ちはいささかどころか大変ショックでした。(県下でも有数市内では文句なしのチームと思い、ここに入ればやりがいがあると思っていたのに)。やっとの思いでバレーの練習をしている所を見つけ、それが商大の体育館で人数が20名位、それぞれ声を出し走ってアタック、トス、レシーブと一生懸命これこそ星陵の練習だなあと思い、30分程あっけにとられて見ていた。心の中では早く入部して1日でも早く練習をと思いながら早やる気持ちを押えて見ていると練習が終り、皆んな商大の木村屋に下りたので(この時、始めて合宿中だなあと感じた)その後をこのことについて行き、木村屋の前迄来ると、表に長田高校バレー部合宿所と云う貼紙を見てあわてて引返してきて星陵の観桜会の

所迄帰って来るあいだ中顔が真っ赤になったのを今だにおぼえています。又サッカー部の所へ行って、バレー部の申込を聞いて見ると今日はまだだれも来ていないとの事で、ガッカリの連続なので勇気を出してノンチの所へ(バレー部担当の藤原先生)行くと職員室でぜんざいを食べている所で、その時始めてバレー部に入部させてもらい、その日1日は早く練習しないかと云う事ばかり思い、ノンチに連れられて部室に行くとはきたないのなんので、だんだん星陵のバレー部の地が出てきた様に感じたが、勝負の世界は勝たなければだめだと思っていたので部屋のことよりやっとな明日よりここで着がえてあこがれの星陵のバレー部員として練習出来る希望の方が大きかったのだ。強いチームに新入するので、1年間位はボール拾いを覚悟していただけに人数不足でH・Cにされたが、何か意気消沈してしまっただが、やはりレギュラーになれるのが本望だったのでうれしかった……………

いざ練習となると仲々どうしてやっばりきつかった。3年生に古角やという人がいたが、その人の言いぐさが気に入った。「バレーをやるからには優勝する以外になにもない。優勝しないのなら練習はやめとく方がましだと」この様な事情で僕はH・Cとして1年生からやっていたのでアタッカーになる気は毛頭なかったが、1年生の終りからアタッカーとしてやり始めた。そもそも自分の体は足が短かく、そして手も短い、1年生の時はジャンプ0なのでレシーバーがネットに向かって練習の合間合間にアタックをしたがるが丁度あれだと自分も他の人と同様

に思って打って見るがネットにひっかかるばかりその時皆に笑われどうしてネットや破れるからやめとけ、といわれたのが(そもそも、アタッカーになろうという気になった)頭に来たので、夏休み中、1人で合宿をやるというのを本当にして毎日体育館でかべを相手にアタックの練習を始めた。始めは打ったボールが真すぐにかかず、よく体育館の端にボールを拾いに行った。バスケットボール部が体育館を占領していたので、1年生の分在で、その中で練習をしている為バスケットの部員によくいらまれたものだ。そしてロクボクを相手にジャンプの練習を始めた。夏休みも終り、2学期になると3年生は全部辞め2年生もあいついで辞め、結局1年生のみになり、キャプテンも自分に決められてしまったので、バレーのチームで誰もアタックをするものがないのではと思う気持ちでアタッカーになる。その時の秋の新人戦で葦合高と思うがフルセットで20-17から連続5点を取られて負けた。その時の間にチャンスが3回も有ったのに、アタックが決まらず、自分ながら恥かしく思った。その時がアタックを始めてから、3ヶ月しかたっていないかった。その時、どうしたらいいのだろうかということ以外に頭になく3年生、2年生の所に相談にいった所、お前は無理や、やめとけといわれたので、又頭に来た。

そしてもう1度どうしたらいいかということも皆に聞いて廻り、その時教えて貰った事がつまさきで歩け、ビールびんをふれ、走れ、腹筋を寝る時にせよ。かべ打をせよ。ロクボクに向かってジャンプをせよ。バスケットのリングを毎日20回続けさせよ。全く無理難題を云われたが、意地があ